



公益社団法人 愛媛県建築士会

<http://www.ehime-shikai.com>



今、激動の建築業界と建築士会との共生を目指して
「夢の家」絵画と設計図展報告
伊予吉田町・医王寺調査報告
第6回理事会（概要報告）

1

寄稿

今、激動の建築業界と建築士会との共生を目指して

愛媛県建設業協会 建築部会長 和家 稔 ……………①

2

支部報告

「夢の家」絵画と設計図展報告
伊予吉田町・医王寺調査報告

西 予 支 部 長 渡辺 建文 ……………②

宇 和 島 支 部 酒井 純孝 ……………⑤

3

委員会報告

古建築保存・修理工事の見学会

文化財・まちづくり委員会委員長 花岡 直樹 ……………⑨

委 員 近藤 岳志 ……………⑨

委 員 峰岡 秀和 ……………⑩

「新規免許登録者セミナー」報告

青年委員会 副委員長 兵頭 岩見 ……………⑫

女性委員会主催 第3回瓦の勉強会「クールルーフの観点からアジアの瓦を再考する」に参加して

松 山 支 部 相原 昌彦 ……………⑬

第3回瓦の勉強会に参加して

松 山 支 部 川崎 陽子 ……………⑭

平成26年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について ……………⑮

4

けんちくの輪

私の建築士会歴
コンピュータと建築の関わり

西 条 支 部 宇佐美金正 ……………⑰

八 幡 浜 支 部 宇都宮勇夫 ……………⑱

5

お知らせ

「建築甲子園」松山工業高校ベスト8受賞 ……………⑲
第6回 理事会（概要報告）
編集後記

事 務 局 ……………⑳

情報・広報委員 ……………㉓



表紙の写真

題 : 春や昔
撮影者: 松山支部 宮内 理

表紙の写真について

この写真は弥生月の松山城の桜です。
良き春になるように願い、撮影しました。

【表紙の募集について】

本誌の表紙の写真を随時募集しています。
愛媛の建築、又は建築と風土、町並み、設計作品などの写真を下記の要領で事務局にお届け下さい。
審査の上、採用されれば掲載させていただきます。
また、サイズの調整やトリミングをさせて頂く事をご了承ください。

期 間：随時
様 式：デジカメデータ（JPEG）
サイズ他：自由
応募方法：持参かメール添付

支部名、氏名、題名、コメント
※応募作品の著作権は募集者に移る条件となります。

今、激動の建築業界と 建築士会との共生を目指して

愛媛県建設業協会 建築部会長 和家 稔



民主党政権から自民党安倍政権に変わり、1年が過ぎました。アベノミクス政策でデフレ経済から2%のインフレ経済へ向けて舵が切られた中で、東北の震災復興が本格化されていく状況下で、2020年に開催されるオリンピックが東京で開催される事となりました。東北の震災復興だけでも技術者不足、労働者不足、資材の値上がり等々で入札不調が続出しております。この上で2～3年後には東京オリンピックに関する工事が多数発注される事態となり、しかも消費税が5%から8%になり、10%になるのもそう遠い時間がかかるようには思えません。

10数年来デフレ経済の中で、生き残るには安値受注の中でいかに利益を上げるのかではなくいかに赤字にならないようにするのが技術者の力の見せ所ではなかったのかと推察します。しかしながらこの1年で大きく変わって来た業界にあって、設計者・発注者・請負者が情報を素早く共有して行かなければ入札の不調・不落が続出し、3者共に不利益を生じることになるのではないかと危惧しているところでございます。

安倍総理は経済界に賃金の引き上げを要請されており、製造業（取り分け大企業）ではベースアップの検討をされている企業が出始めています。このような中で中小建設業者は利益の向上がみられない為にベースアップもままならず、技能者の高齢化がますます進み労働力不足で施工金額がアップし、悪循環を繰り返さざるを得なくなるのでは無いでしょうか。

我々建設業界に従事するものにとって、目先のことだけに囚われるのではなく、10年先、20年先を見越して生産性のある希望を持てる業界作りを関係者一丸となって進めなくては若年労働者の確保は困難を極め、その上職場への定着率を高めることは難しくなるのではないでしょうか。建築士会に在籍されている方はいろんな方面に所属されています。設計事務所、公務員、ゼネコン、専門工事業者等々多岐にわたっています。建築士会の中で各業種のネットワークを生かして、若者が魅力を感じられる業界作りができないものか今一度、考慮して頂ければありがたいと思っております。

我々建築業界では、四国4県の建築懇談会を毎年開催し、整備局・県・建築部会の3者で意見交換を行っています。また、愛媛県内におきましては、県営繕部・建築事務所協会・建築部会で意見交換会を開催してはどうかとの話も持ち上がっています。

我々建築部会は近い将来、遭遇するであろう南海地震に備えて、一昨年に愛媛県との間で震度6以上の地震が発生した場合に、県からの指示が無くても要請があったものと見なして、対象の建築物の被害状況を県に報告するという訓練を行ってきました。巨大地震が発生した場合に、自動的に行動する体制が整っていれば、迅速な被害状況の把握が可能となります。今後とも訓練を通じて活動していきます。部会員の建築士の方々には、応急危険度判定士の資格を取って頂くように周知も致しております。

建築部会と建築士会は互いに協力し合って、災害時のボランティア活動にスムーズに取り組むことができるように協議の場を設けて行けないものかと考えている所でございます。建築士会の会員の皆様には、いろいろな立場で建築部会員がお世話になっております。今後とも建築業界の発展の為に多大なるお力添えをお願い致します。

「夢の家」 絵画と設計図展報告

支部報告

2

西予支部長 渡辺 建文

西予支部では「平成 25 年度地域貢献活動」として、支部内小学生を対象にした「夢の家」絵画展を実施しました。

この絵画展は、子供の絵を展示するだけでなく、子供の絵画を参考に建築士が「設計図」を作成しました。



表彰式風景

子供の絵画は、深く評価するのではなく、直感的に純粋に鑑賞するべきもののように感じました。

「設計図化」・「模型化」では、子供の世界に入って、仕事に追われるだけの現実とは違う世界を、教えられたように感じます。(表現は、少しオーバーですが)



建築士会 PR 広告と絵画と模型

15 年前、和気支部長時代に青年部主催で同じ絵画展を行いたいへん好評でしたので、今回実施しようということになりましたが、役員会開催の遅れから小学校の依頼が夏休み直前となった事と、自由参加とした事もあり、参加作品は予想外に少ない結果になりましたが、それでも 41 作品集まり、多彩な作品に賑わいを感じました。

当初の計画では、各学年・最優秀作品の計 7 点について、「設計図化」の予定でしたが、参加数を考慮して、4 作品としました。



展示風景

「設計図作業」は会員の実務の予定の中から時間を確保して、それぞれの仕事がある中での作業となり、たいへん苦勞をされたようです。

参加作品には、子供の純粋な「感性」や「豊かな表現」、大人の発想では思いつかない「色使い」などがあり、改めて驚かされました。

今回、広報委員会の井関委員長のはからいにより、ケーブル TV・愛媛新聞社も取材して頂き広く報道する事で、建築士会の PR になったと思います。

また表彰式には、受賞者やその家族が 60 名余りと会員も 11 名集まってもらい、久しぶりに「支部活動」を実施したように感じました。

当西予支部においては、会員も少ないうえに、田舎特有の地区行事も多く、なかなか時間が取れないのが実状ですが、毎年のことながら、「地域貢献活動」としての行事の発案には、とても苦勞しています。

支部長としての私の力不足が、一番の原因ではありますが、「発案」があっても「実行」が伴わなければ「行事」にはなりません。

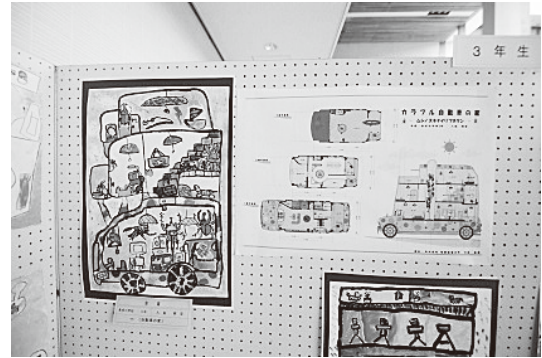


受賞者の西森くん

会員相互の意識が高まり意欲的に参加するようになれば、より活性化していくとは思いますが、それぞれの時間的制約なども有り、私的制約の中での貢献活動の難

しさを何時も考えさせられますが、「やり遂げた充実感」を味わう度にやって良かった!と今回もそうですが実感しています。今回、伊予銀行野村支店から要望があり、支店の展示ロビーにも、展示していただきました。また、銀行のホームページにも掲載されたようです。

最後に、各学校の先生方をはじめ参加下さった生徒さん、その父兄の皆様、又御協力下さった方々に対し、この場を借りまして、心よりお礼申し上げます。

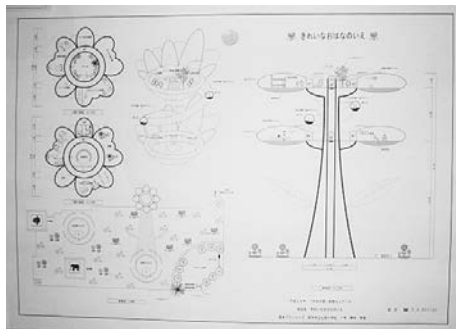


絵画と設計図

絵画と設計図

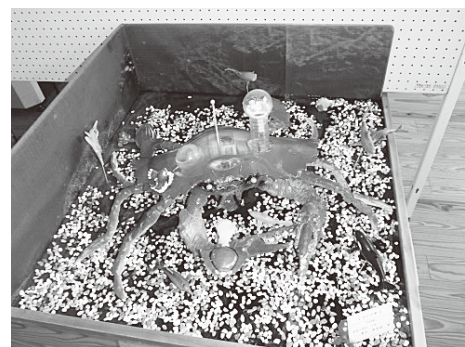
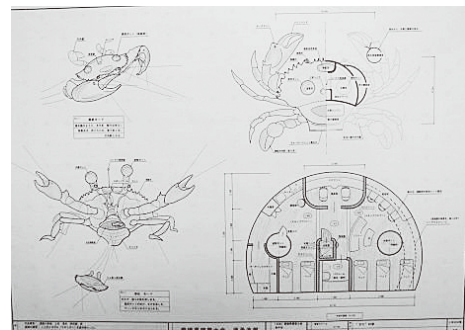
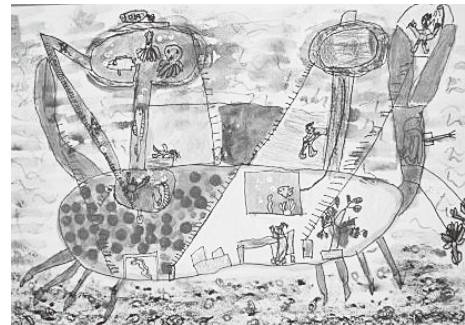
【きれいなおはなのいえ】

絵画 1年 榎本 笑美さん
設計図 Y.A.Design 山内 真一さん



【かにの家】

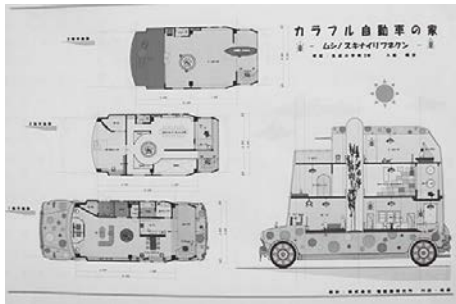
絵画 2年 清水幸四郎くん
設計図/模型 渡辺 建文さん



.....
【カラフル自動車の家】

絵画 3年 入船 朔空くん

設計図 (株)堀建築研究所 川田 浩嗣さん/梶原 明華さん



.....
【夢の木レストラン】

絵画 4年 西森 剛雅くん

設計図 スタジオ MoMo 下元 美恵さん



表彰式集合写真

伊予吉田町・医王寺調査報告

宇和島支部 酒井 純孝

宇和島市文化財審議委員 赤松嘉進先生より医王寺の概要の説明を戴き、伊達吉田藩の鬼門厄除け寺として、比叡山末寺の証状を受けていて山伏の修行寺等の説明を受けた。宇和島市吉田町で一番古いお寺の本堂と称されている医王寺を宇和島支部文化財委員会で調査を行った。

宇和島伊達藩の分かれとして、万治元年（1659）吉田藩主宗純が陣屋入りに伴い陣屋から医王寺の方角は丑良の方向に当たるため鬼門除けの祈祷所と取立てられる事になり延宝5年（1784）に薬師堂の修理が行われ続いて天和元年（1681）に護摩堂として建立。同年に客殿、吉山王宮造営とあいついで伽藍の再興となり、藩の祈祷所の寺院として取立てられている。

現在の本堂は天明4年（1784）五代藩主村賢によって再建されて残っている。本堂の概要は木造平屋建て、和瓦葺き、平入向拝、壁は土壁漆喰塗り。壁について、向拝面方向以外は土壁漆喰塗りで杉板貼り。向拝部分は4本の柱を設置されていて、信者は一度に多くの方々が参拝できる構えをしている。

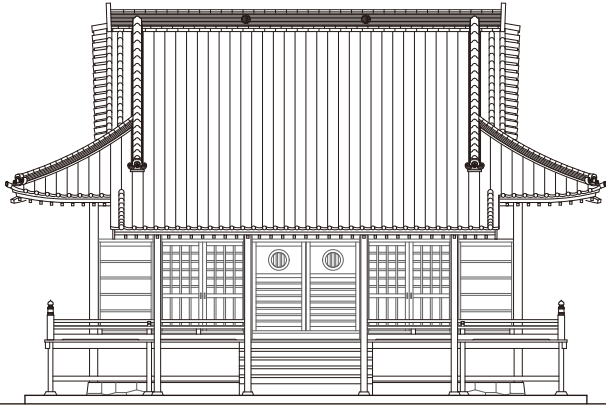
本堂内陣は中央で仕切られて左に本尊薬師如来と不動明が同じ場所に安置されている。本寺が再建された時代

は別々にまつられていた。本尊薬師如来と不動明が同一場所に安置されている形態はきわめて珍しい。別々に祀られていた時代は本尊薬師如来不動明の内陣で、護摩を炊いた痕跡が残っている。漆喰壁、天井板、竿縁などは煤がついていて煤けて黒い。内陣と外陣の境は格子戸が設けられている。

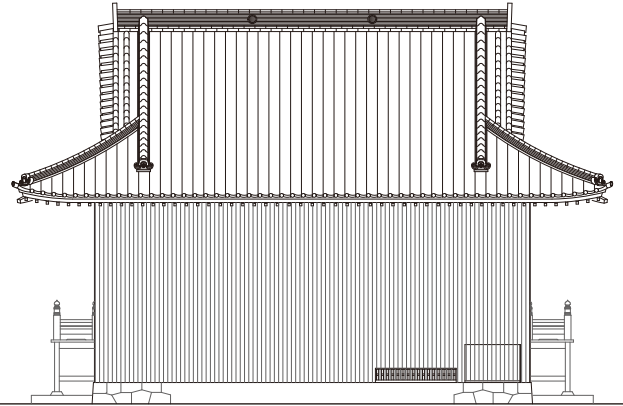
中でも薬師堂の須見壇は王永年間、桧造りで寺院再興時のもので、簡素な姿は往時の面影をとどめて貴重な財宝である。

本堂向拝部分と屋根瓦は近年修理されている。寺院本堂としては非常質素な造りであって素朴である。境内も自然の借景を利用して庭園も清掃されていて凜とする。永く保存をしたいお寺です。宇和島支部文化財調査委員会では1年に一物件毎調査記録を残していく活動を目標に於いている。

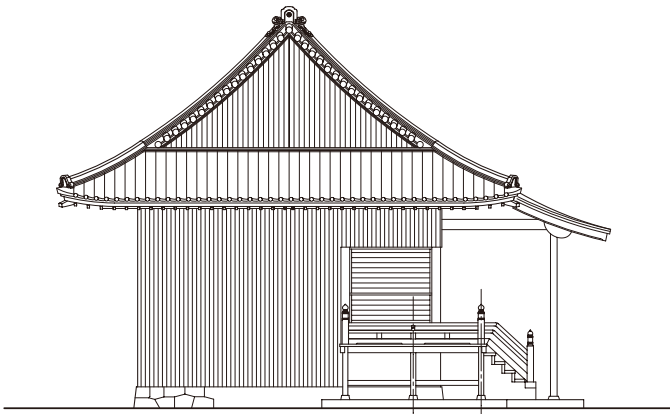
宇和島支部の活動に関しては職人さんや、一般の方々の参加も呼びかけております。興味のある方や調査に御協力戴ける方はご参加下さい。



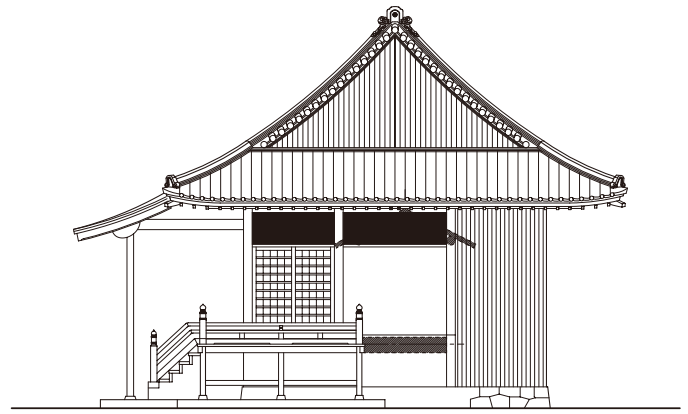
南立面図 S=1/100



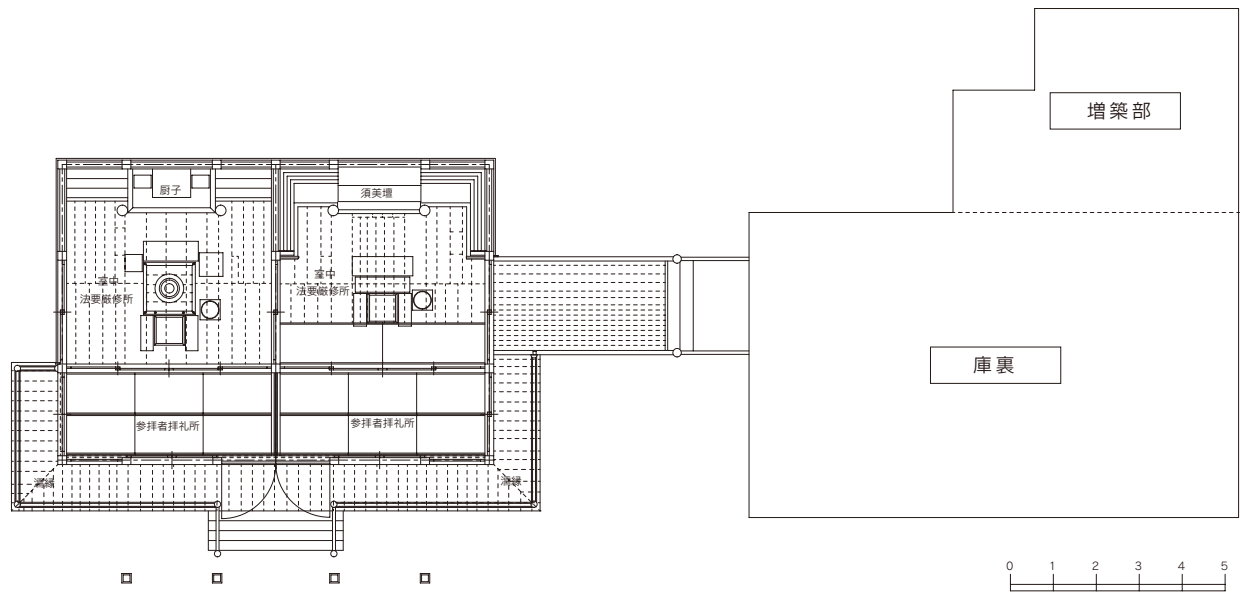
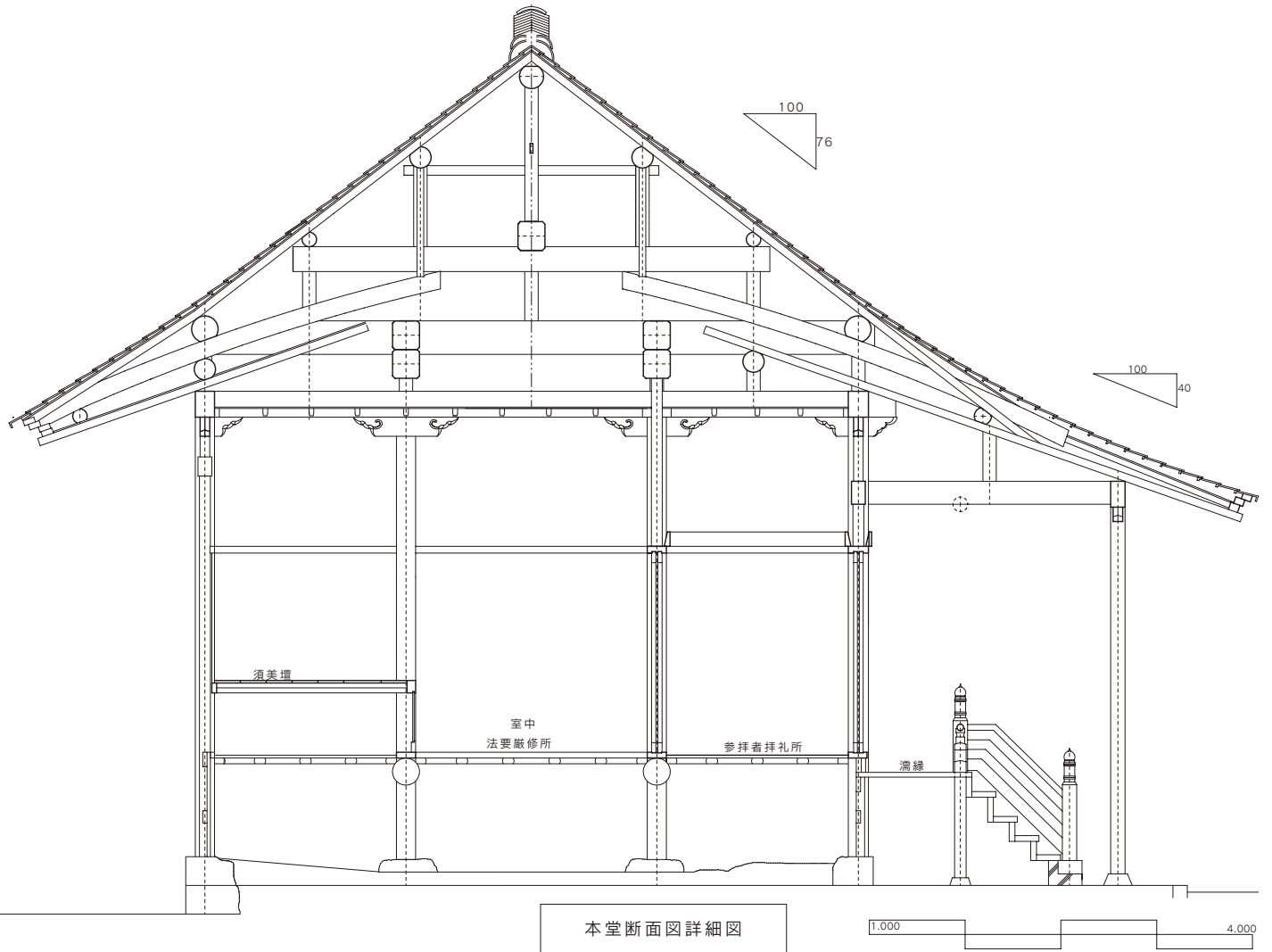
北立面図 S=1/100

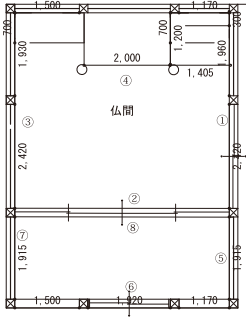


西立面図 S=1/100

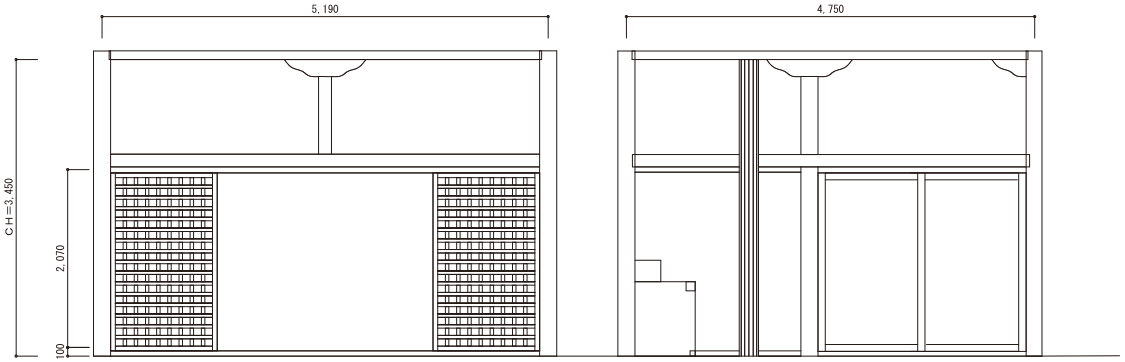


東立面図 S=1/100



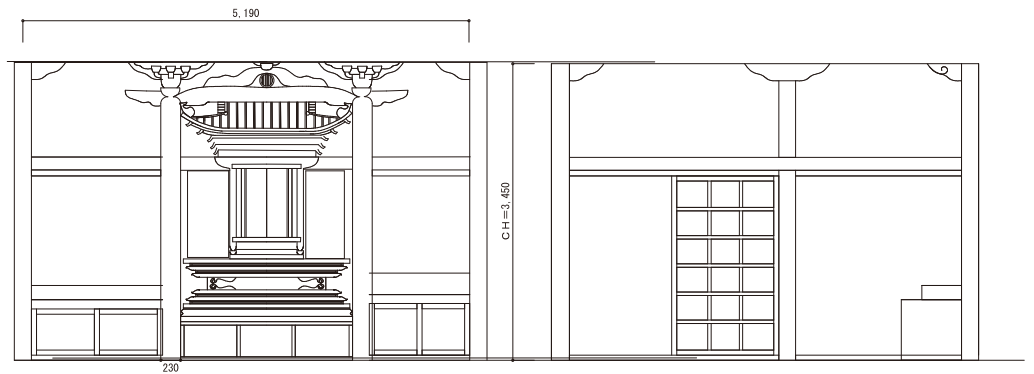


1階 平面図 S:1/100



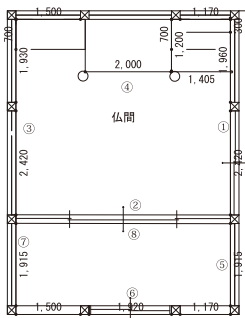
①

②

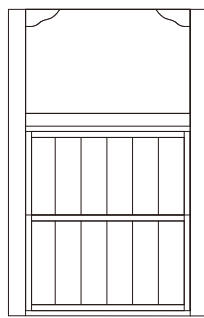


③

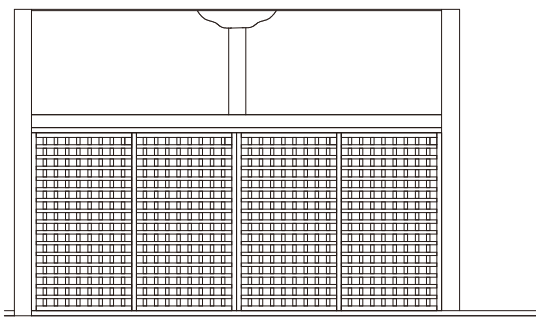
④



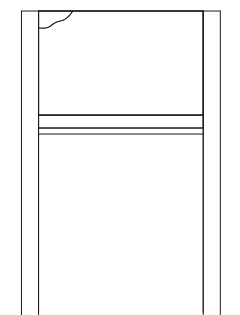
1階 平面図 S:1/100



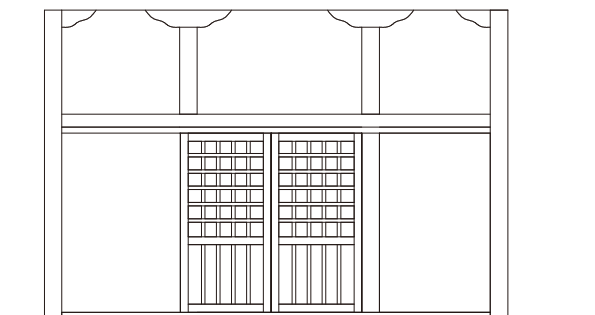
⑤



⑥



⑦



⑧

古建築保存・修理工事の見学会

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

12月14日に、南予地区の2件の古建築の保存・修理工事の現場見学会を開催した。まず午前中に、西予市野村町平野にある松の窪堂（西予市指定文化財）の茅の葺き替え工事を見学した。最近ではめったに見られない、しかも地元の職人による葺き替えに、参加者は興味深く見学した。

午後は大洲市柚木にある如法寺仏殿（国指定重要文化財）を見学した。昨年の小屋組み補修中に引き続き2度目のとなる今回は、屋根の瓦葺きの様子を見ることができた。監理の公益財団法人文化財建造物保存技術協会の前堀所長の詳細な説明のもと、瓦葺き以外にも、柿葺き、土間三和土などの施工の仕方も見ることができ、こちらも大変有意義な見学会となった。

松の窪堂

建物の概要



松の窪堂の改修工事の様子

西予市野村町平野にある松の窪堂は中筋村史によると享保10年(1725年)に不動堂として建てられたお堂で、源太大師堂とも呼ばれている。

建物は、桁行(正面)3間、梁間2間、平屋建て、寄棟造平入り、茅葺きである。柱は、6寸5分(195mm)の丸柱で、礎石の上に直に建つ。柱頭は粽(ちまき)を持ち台輪を乗せるなど、禅宗様の意匠が一部用いられている。組物は平三斗で、中備は正面のみ植物柄を彫刻した墓股を乗せている。

1日に種類の違う屋根の葺き替え工事を見学でき、参加者は古建築の保存修理工事の大変さ・大切さを改めて認識するいい機会となった。

調査年月日：平成25年12月14日(土)

調査場所：松の窪堂（西予市野村町平野）

如法寺仏殿（大洲市柚木）

参加者

生熊 有子、近藤 岳志、酒井 純孝
白石 耕平、花岡 直樹、峰岡 秀和
他4名

委員 近藤 岳志

屋根の茅は、最終の葺き替えより約32年が経ち劣化が進んでおり、今回改修工事が行われることとなった。

80歳の茅葺職人浅野さん

この現場の屋根の茅の葺き替え作業を指揮するのは、愛媛県西予市で唯一の茅葺き職人といわれる浅野頼光さん。御年80歳とご高齢でありながら、奥様、親族関係者と共に茅葺き作業を進めていた。

浅野さんは、一度は引退したそうだが、市教育委員会からこの仕事の依頼があり、最後の仕事だと思い、引き受けたそうだ。浅野さんは、小さい頃、いろりの煙でいぶされたカヤで顔が真っ黒になるのが嫌で、父の仕事



茅葺き職人の浅野さん

を浚々手伝っていたが、かやぶき職人の4代目として、15歳から60年以上続けてきた。

昔に比べ、現在は室内から、かまどやいろりがなくなり、茅の防腐剤になっていた煙がなくなったため、茅の持ちが悪くなり、板金屋根が当たり前になった。地元には同業者も、需要の減少とともに廃業していったそうだ。

茅の葺き替え作業の見学

天気予報は、雨だったが、見学中だけは見事に雨が止み、人生初の茅の葺き替え作業を見学することができた。また、浅野さんの力強い作業風景を見ることや、経験に裏付けられた説得力のあるお話を聞くことができた。

この時期は、気温も低く、雨や雪が多い為、作業がなかなか進まないとのことだった。



茅葺き屋根の見学風景



縄で茅を編むように縫い込んでいく

茅は水下から葺いていき、下部の垂木に縄を縫い込むように茅を固定していく。この作業は下で針の差し込んだ位置が適正かどうか確認する人が必要となる。顔が見えない二人のやりとりを聞くだけで、絶妙のコンビネーションを感じた。

材料は大野ヶ原地区の地元の茅を使っていて、茅1600束の材料も、すべてが均一ではなく、大小に分けたり、曲がった茅を外す等の選定作業も必要で昔に比べて良い茅が確保出来なくなったそうだ。



茅をたたいて整える木製の道具

茅を整える道具で茅をたたくと、不思議と茅の先端が揃い、綺麗に仕上がる。道具はすべて手作りだそうだ。

また、茅をはさみで整える際に、はさみの入れ方一つで、屋根のデザインも変わり、耐久性も変わってくると浅野さんは語る。茅葺き職人として深みのある経験とプライドを感じた。



茅の木口面

見学中、浅野さんを始め、屋根工事関係者の方には作業中にもかかわらず茅葺き屋根の魅力や後継者問題、茅の確保の難しさ等を教えて頂けた。改修工事完了後にまた訪れ、茅葺き屋根の魅力を再確認したいと思う。

関係者のみなさま、ありがとうございました。

如法寺仏殿

委員 峰岡 秀和

はじめに

大洲城を背中に肱川沿いを東に走り、しばらく山道を登ると如法寺がある。大洲盆地の中央、街並みを見下ろすようにそびえる富士山の中腹に位置する。普段は寺名石のそばに立つ、風格にある山門から石段を登ってゆくのだろうが、今回は工事中ということもあり、本堂の裏手に当たる門の方からお邪魔する事となった。

今回は前回（2012年11月）に引き続き二度目の見学会で、屋根工事が終盤を迎えているところだった。

重要文化財 如法寺仏殿

臨済宗妙心寺派に属する如法寺は、大洲藩二代藩主の加藤泰興が盤珪永琢（ばんけいようたく）を中興の開山として招き、寛文9年（1669年）に開いたのが始まりだそう。今回見学させていただいた仏殿は史料等からも寛文10年（1670年）の建立ということである。

長年の雨漏りに加え白蟻の被害などで損傷の激しかった仏殿だが、平成22年から補修工事が開始された。

見学会に参加して

瓦を葺くにも時代を調べ、歪を見ながら形を合わせてゆくという根気のいる作業を行わなければならないということであった。時間と、根気と、情熱のいる作業である。また、現在ではたなおして残すという作業だけでなく、耐震工事も行わなければならないようで、板壁の中に耐力壁を作ったり、隠れる部分に基礎工事を行いアンカーを取るなど苦労されたお話を聞くことができた。

こういった文化財の補修工事はいかに材を捨てないで残してゆくかが重要なのだそう。建築物自体がタイムカプセルのようなもので、彫刻師からどこの大工集団の作品か、瓦からどういった流通があるか、木材の程度から急いで建てたものなのか、加工した道具の跡からいつの時代のものかがわかるようである。一部ロストテクノロジーになってきているものもあるようで、そういったものを残し、後の時代に保存してゆく仕事なのだそう。そのために現在考えられる最新の技術、知識、そして受け継がれてきた技術が必要であることを勉強させて頂いた。

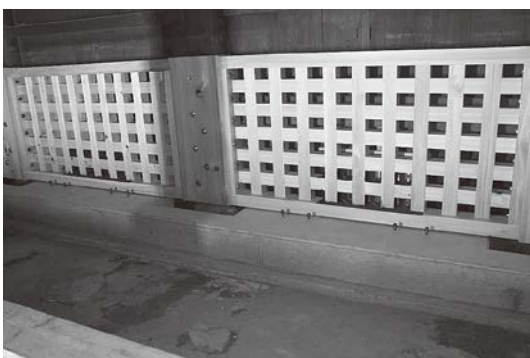
最後に今回お忙しい中、長時間に渡って説明をしていただいた公益財団法人文化財建造物保存技術協会の前堀所長を始め、作業中に手を止めて質問に答えてくださった職人のみなさんに感謝を申し上げます。



使用されている鬼瓦について説明を受ける



三和土の作業状況の見学



可能な限り行われている耐震補強



瓦の形状を調べ、一度並べてから屋根に上げる

「新規免許登録者セミナー」報告

青年委員会 副委員長 兵頭 岩見

平成 26 年明けて最初の青年委員会事業となる新規免許登録者セミナーが 1 月 25 日にいよてつ会館にて開催されました。今年で第 4 回となります。



平成 25 年建築士試験合格者が 7 名参加し、講師には八幡浜支部の氏間貴則氏になって頂き、青年委員会メンバー 7 名参加で執り行われました。



重要事項説明等、建築士の職務内容・倫理についての話に合格者の方も真剣に聞き入られていました。



懇親会は合格者 6 名の参加で、少数ならではの和やかで話しやすい場が提供できました。その場で入会申し込みサインするシーンも見受けられ、各支部のメンバーが新規獲得のため建築士会を猛アピールしました。



合格者の職種を聞いてみると工務店、エクステリア、建材等バラバラでした。多職種で情報交換していける良い会だと再認識できました。ありがとうございました。

女性委員会主催

第3回瓦の勉強会「クールルーフの観点から
アジアの瓦を再考する」に参加して

岡山支部 相原 昌彦

11月30日 愛媛県総合社会福祉会館にて、関西大学環境都市工学部建築学科 木下光准教授をお招きした、愛媛県瓦工事業組合青年部と青年・女性委員会との共同で開催された、テーマ「クールルーフの観点からアジアの瓦を再考する」の勉強会に参加しました。

日本中どこにでもある瓦葺きの屋根。日本特有と思っていましたがアジアでも色や形は違うが意外と多く使われているそうです。

瓦は、その地その地で採れた粘土を足で踏み手でこねて「たたら」にし、形にして里山で集めた薪をくべて窯で焼いて造られます。農村の田んぼにある粘土から、高価な価値ある物を造り出す瓦は人に生活の糧を与え、その地域の農業や里山の保全に貢献していました。

これまで長い間、人の手と足と全身を使って造られた瓦は、高度成長期になると土を練る機械・形にする機械・ガスで焼く窯と、機械によって造られた瓦へ代わりました。見た目はあまり変わらない様に見える今の瓦と昔の瓦ですが、物性的には違うものとなりました。

人の手や足で練った瓦には多くの空気が含まれ多孔質になり、だるま窯（蒔きで焼く昔ながらの窯）で900℃以下の低温で焼かれた瓦は水を吸いやすい吸水率の高い瓦となります。また、いぶし瓦（表面に炭素皮膜をかけた瓦）の「いぶし」も、だるま窯で焼くゆえに人の経験と感に頼る温度管理となり「いぶし」のノリにむらが出来、均一な瓦を造るのが出来なかったそうです。しかし現代の瓦は機械で練るので空気をほとんど含まず、ガス窯で1,000℃以上の高温で安定した温度で焼くため「いぶし」も均一にノリ、一枚一枚の色ムラもほとんどない瓦となりました。

吸水性が高く低温で焼かれた瓦は、吸水性が低く高温で焼かれた瓦と比べると、凍害や衝撃に弱かったので自ずと淘汰され、日本各地にあった窯元も高温焼成に耐えられる粘土が産出される地域が瓦の産地として生き残り残りました。いぶし瓦と言えば「三州瓦」が代表する産地となったのは、瓦職人の技術革新への努力の証である。

しかし、ここまで進化した瓦にも関わらず、いま家を建てる時に瓦を葺こうとする人は減ってしまいました。「日本人らしい家だから」という、社会的なイメージだけのために高価な瓦は選ばれなくなり、「日本人の家は瓦屋根だ」との伝統も失われています。

ならば瓦屋根の家は「こんなに快適です」と言うことが出来れば瓦は再評価されるのではないのでしょうか？

夏の冷房エネルギーの消費を減らし、エアコン排熱による地球のヒートアイランド抑制にも効果があればと思います。沖縄県大城集落にある沖縄最古の住宅で国指定重要



文化財に指定された「中村家住宅」を調査しました。

沖縄の屋根と言えば、この地の赤い土を練って蒔きで焼いた女瓦（平瓦）の上に男瓦（丸瓦）を葺いて、台風には飛ばされない様に隙間を漆喰で固定した、赤瓦と白い漆喰のコントラストが特徴だと思います。

中庭に開かれた縁側の間取り・琉球竹下地に葺き土・漆喰に赤瓦と、どれも通気性・多孔質性に富み、大棟に開けられたクウキミ（空気抜き）と呼ばれる換気口は、小屋裏の熱を排気させる工夫が設けられていました。

沖縄では昔、お金がある時に少しずつ瓦を買い足して瓦を葺く、或いは葺き替えたそうです。従って色や形が不揃いな瓦を整えて葺くのが、葺き師の技でした。時は経ち色あせ・雨だれやコケが生え、あの沖縄独特の住宅の風情が作り出されたのです。

ではアジアの瓦に目を向けるとどうでしょうか？スリランカの建築家ジェフリー・バワのルヌガンガ（母屋）ではポルトガル由来の半円の薄い鱗状の瓦を何枚も重ねて葺くことで、瓦の間に空気層が出来ます。これは小屋裏の温度を下げるのに効果があると思われる。また屋根にはところどころに、半円型の形は違うものの換気口も見られました。

次に、ハノイのドンラム村の伝統住宅の母屋に葺かれているフランス由来の平瓦は、大きさが不揃いで一枚一枚もかなり歪んでいますが、瓦の歪みや反りを見ながら葺き師はうまく雁足（瓦の斜めライン）が出来るように葺くのが腕の見せどころだと言っていました。沖縄・スリランカ・ハノイと共に、その土地の粘土を使って、色や形や葺き方は違いますが、吸水性の高い多孔質な瓦を葺くことで、暑さを凌ぐ工夫が共通していることを痛感したそうです。

沖縄・スリランカ・ハノイの調査から、瓦には「瓦の中：瓦の多孔質性」・「瓦と瓦の間：瓦の下地の造り」がポイントとなり、「空気をどこに含ませ、空気をどの様に動かすか？」をキーワードに、大学キャンパスのグラ

ウンドの片隅にモックアップを造り瓦の裏側（小屋裏の想定）の温度を計測すると、下表の結果となりました。

温度が高い	温度が低い
ガス窯で焼いた瓦	だるま窯で焼いた瓦
機械練りの瓦	手練りの瓦
一般的な瓦下地	通気層のある瓦下地

また日本酒の蔵元の友人が、「お酒を搾った後の酒粕の処分に困っている。」と相談され、瓦の原料に酒粕を配合させて焼成することで、「酒粕に含まれる吸水性のある窒素炭化物で瓦自体の吸水性を高めようとする実験」を思いつき、実験を始めたそうです。まだまだどれも実験途中ですが「瓦の土・練り方・焼き方等、その組み合わせ方には、まだかなりの工夫の余地がある。」と熱く語られました。

勉強会後の懇親会では、瓦だけに捉われず木下准教授の疑問・感じていることを聴くことができました。その地その地にあった瓦の土を採取している企業が減り、地域性に個性がなくなり、「日本全国均一な瓦が今後増



えるのではないかと」との瓦業界への危惧や、瓦の土の採取による自然破壊や、瓦を焼くガス窯から排出される二酸化炭素の問題や排熱の再利用方法など、まだまだ取り組みたいテーマがたくさんある。「建築士は建物をつくるだけがその仕事ではなく、人の存在や幸いを確かならしめるものであれば、建築の枠にとらわれず、あらゆることに柔軟な発想を持って対応することすべてが、建築の仕事と思っています。」締めくくられ、木下准教授の熱い思いを感じることができました。

第3回瓦の勉強会に参加して

松山支部 川崎 陽子

昨年11月30日、3回目となる瓦の勉強会に参加しました。

第1回目は菊間町のかわら館にて、瓦の歴史や現代の新しい工法を学び、(株)菊銀製瓦の工場見学を行いました。2回目には、株式会社山田脩二淡路かわら房主宰の山田脩二氏を講師にお招きし、スライドを見ながら楽しいお話を興味深く聞きました。

そして今回は、関西大学環境都市工学部建築学科准教授木下光氏を講師に、「クールルーフの観点からアジアの瓦を再考する」をテーマに、伝統的な建物の瓦屋根、海外や沖縄の瓦屋根、沖縄の中村家住宅での取り組みや活動を、およそ2時間にわたりお話していただきました。

毎回違った瓦のお話が聞けて、おもしろく視野の広がる勉強会になっていると感じます。今後も、愛媛県瓦工事業組合青年部の皆様と力を合わせ、楽しく勉強をしていけたらと思っています。

私の建築士会歴

けんちくの輪

西条支部 宇佐美 金正

西条支部の山本 宏さんからバトンを受けました。何を書いて良いやら判りませんが、私の建築士会入会履歴に付いて、振り返って見ようと思います。

私が、建築士会に入会したのはゼネコンを退社帰省し、新居浜の設計事務所に入ってしばらくしてからです。定かではありませんが、昭和50年から51年だったと思います。振り帰ればもうすぐ40年近くの長さになります。

入会是新居浜支部でした。その当時新居浜支部では建築関係の映写会や技術講習会、講演会等かなり活発に活動していた事を思い出します。今でも当時活躍していた人々の顔が思いうかびます。

特に京都・大阪の有名建築を1泊で見学に行った思い出は今も印象に残っております。

その後昭和52年に地元西条で建築事務所を開設したのですが、西条支部から誘いがあり支部の転籍をしました。当時西条支部は活動が低迷していた時期で支部の借金もかなりの額になっておりました。

平成の始めの頃、支部を立て直す為、塩崎巳年夫さんや三浦恒三さんらが中心となり借入金の返済の為寄付金集めや会費の徴収・会員の募集等奔走し何度も会議を重ね組織を建て直しました。今では懐かしい思い出です。

平成6年の建築士会全国大会（愛媛大会）では、西条支部も数名がお手伝いし、私にとっては初めての全国大会であり、この大会の参画で全国の会員との交流は貴重な経験になりました。

平成18年には塩崎支部長よりバトンタッチを受け、西条支部長に就任し、現在まで4期8年になります。こんなに長くするとは思っていませんでしたが、そろそろ若い世代に交代したいと考えております。

本部理事もかなり長く務めましたが、全県下の多くの仲間とも知り合えたのは建築士会に入会したお蔭だと思っております。

当支部の会員の名簿を時々整理する事や、案内葉書等を出すことがあります。一度も士会の事業に参加のない人や一度も逢ったことのない人がかなりおります。

せっかく会員になっているのに何かもったいないと感じております。

最近インターネットやE-mail等で必要な情報を取るの、非常に簡単になりましたが、人と人のつながり、表題にある「けんちくの輪」と言うのは、やはり事業に参加したり会に出席したり等が重要な要素になると思います。

若い人には、是非建築士会の事業に積極的に参加して頂き人と人の繋がり、けんちくの輪を作って建築士会を盛り上げて欲しいと思っております。

次回の「けんちくの輪」はいつもお世話になっている周桑支部 支部長の 首藤 忠夫 さんをお願いしたいと思います。宜しくお願いします。



西条支部花植え



全国大会島根大会（新居浜・西条・周桑支部）

コンピュータと建築の関わり

八幡浜支部 宇都宮 勇夫

西予支部の山内さんよりバトンが渡されました八幡浜支部の宇都宮です。

最近の業務の内容から何か書こうとすると、正直書くことがない、というか「書けることがない!!」と困ってしまいました。そこでふと思い出したこと、高校生になる甥っ子から「情報処理のテスト勉強見て欲しい」という依頼。今どきの高校生の情報処理の勉強内容にも驚きましたが、いきなりの申し出にも何とか対応できている自分にもホッとしたり驚いたり。

大学では元々は建築学科とは異なる材料工学の研究室で解析シミュレータを開発したり、その後建築学科に転身し、結局ここでも解析シミュレータを開発したりと、コンピュータとは切っても切れない関係でした。その後東京で就職してからも、結局振動解析業務がメインという、これまた一日中コンピュータとの格闘の日々でした。

愛媛に戻ってからは、現場管理などがメインですが、今でも現場管理やらの業務の合間、曲げモーメントやらせん断力やら、力と数字と戯れながらコンピュータと関わる仕事も未だにやっていたりしています。

コンピュータといえば、今からもう30年前になりませんが、親戚の家に、確かCASIOだったか、小さなグリーンモニター体型のパソコン（といっても電卓の延長のような。。）が置いてありました。当時中学生だった私は、雑誌に掲載されていたゲームプログラムを打ち込んで動かすために足繁く通ってました。結局遊ぶために必死になってたわけです。高校生になり、当時は高かった8ビッ

トパソコンを親に買ってもらったりで、受験勉強そそこにゲームしたり簡単なプログラム書いたり。

大学ではしばらくコンピュータから離れた生活だったんですが、話が冒頭に戻り、研究室配属されてからは、一日中シミュレータプログラムを書く日々が続き。。

結局、この頃の経験に建築、主に構造計算関連の業務が関連して未だに仕事になっていたりします。高校数学や物理で勉強してきたことが本当に仕事に関わってくる。

現場業務が長くなると、すぐに忘れてしまうのが残念な所ですが、それでも人世無駄なことがないんだなあ実感しています。20代のころプログラマは35歳定年説とかがあり、40歳ではコンピュータに関わる仕事は出来ないと本気で思っていたのですが、今でも何とかついでに行けているようです。技術の移り変わりが激しく、あっぷあっぷしながら。

「けんちくの輪」ということでの寄稿ですが、人と人をつなげる「輪」ではなく、工務店を家業にする家に生まれた自分が、中学生の頃に出会ったパソコンを通して、また建築に戻り混ざりあって続いてきた「輪」という話となりました。しかし、この内容だと出せる写真が無い!!内容に合った写真がないので、就職前に卒業旅行として行ってきたヨーロッパの写真などを。建築らしいところも出しておきます(笑)

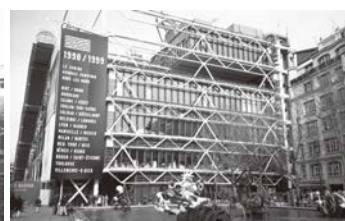
ということで、多分建築士会では妙な経歴の私ですが、今後とも宜しくお願い致します。



サグラダ・ファミリア工事中1



サグラダ・ファミリア工事中2



ポンピドゥー・センター改修中。
入れませんでした。
垂れ幕に1998/1999



ロンシャンの礼拝堂。
ちょっとあまり見ない構図で。

「建築甲子園」 松山工業高校 ベスト8受賞

ゆめを・希望を・未来をみんなでつくる

2013年 第4回

高校生の 「建築甲子園」

実施・応募要項

主催 公益社団法人 日本建築士会連合会、都道府県建築士会

後援 公益社団法人 全国工業高等学校長協会、国土交通省

(公社)日本建築士会連合会、都道府県建築士会主催の2013年第4回「建築甲子園」の審査が行われ、愛媛県立松山工業高等学校の「みかんの里」がベスト8に選ばれました。

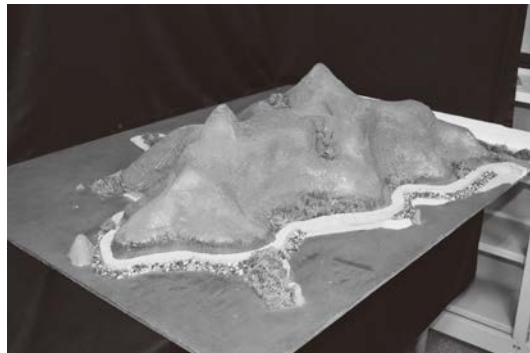
◎選手：建築科 3年生 西田 周平

◎監督教員：堀部 正泰

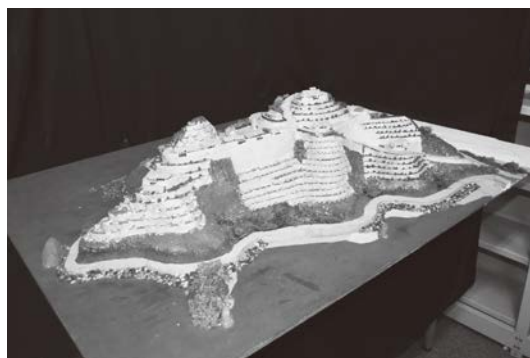
◆受賞おめでとうございます。



応募作品



条件設定模型



提案設計の模型

2013年 建築甲子園結果

優勝	徳山工業高等専門学校	就漁支援 ～広がる暮らし～
準優勝	山梨県立甲府工業高等学校	富士山と共に ～御師の町に住まう～
ベスト8 審査委員長特別賞	青森県立青森工業高等学校	薪ストーブ街の提案 これからのエネルギーは電力だけに頼れない
ベスト8	栃木県立真岡工業高等学校	木綿ふれあい工房 ふれあいが生む伝統と文化の伝承
ベスト8	群馬県立前橋工業高等学校	工の継承 赤城型民家の伝承
ベスト8	名古屋市立工芸高等学校	有徳通り
ベスト8	明石工業高等専門学校	酒蔵のまちの教会
ベスト8	愛媛県立松山工業高等学校	みかんの里

あなたの原稿や表紙写真をお待ちしています。

公益社団法人移行に伴い、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿や表紙写真を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行から5回となります。

「いしづち」の本年度の原稿締切日
平成26年 5月号 3月27日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。写真は1ページ当たり5枚程度まで題名を付けて添付ください。また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付ください。

情報・広報委員会

編集後記

3月号は97号です。100号は9月号となり、特別企画を検討中です。

井 関

あなたの一言が、社会の人々との絆を結ぶ力となることを活かして下さい。寄稿を待っています！

二 宮

会員の皆様、原稿を送ってください。

宮 内

会員の皆さま、「いしづち」についての忌憚のないご意見をお寄せください。

大 上

年度末で皆さん忙しいとは思いますが、もう春です。

水 野

〈いしづち〉2014 / 3

平成26年3月発行

発行人 会長 本田 壽

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会

委員長 井関 克徳 副委員長 宮内 理

編集委員 二宮 初子 佐伯 明 越智 麻衣 玉乃井公和 城戸 一也 大上 恵子 水野日出夫

